

くるみ保健だより

H 2 2 年 5 月 NO. 2

六甲アイランド病院長 山田至康氏 講演 より引用

_____ 子どもの事故は大半防げる_____

子どもの事故はいつ起きても不思議ではありません。ちょっとした油断や、知識不足、日々の忙しさから起こってしまいます。この時期、帰省やレジャーなどで、親も子も開放的になり目が行き届かなかつたり、人が大勢集まる場面では、「大人がこんなにいるから、誰かが見ているだろう」と思ったりしがちです。そこに落とし穴があります。あわてないために、日々の生活に注意し事故を未然に防ぎましょう！！

* 事故は発達と密接な関係があります

| 0～1 歳児 | 1～2 歳児 | 3～6 歳児 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none">転落（ソファアー・ベット）窒息誤飲やけど溺水 | <ul style="list-style-type: none">転落溺水誤飲やけど手をはさむ | <ul style="list-style-type: none">やけど転落菌ブラスンや箸による咽つき交通事故 |

* 日本での事故のNo. 1 は風呂での溺水だそうです。

1. 誤飲 (たばこ 硬貨 ボタン 洗剤 除光液 灯油など)

- 吐かせていいものと、そうでないものがあります。主に液体は吐かせてはいけません。

- タバコを誤飲した子の中には、何度もタバコの

誤飲で来院してくる例があるそうです。

普段から手が届かない所に置くことが大切です。



* 事故を未然に防ぐには

- 危険な物や、口に入れたら危ない物は子どもの届かない所に片付けましょう。普段から、部屋の整理、整頓、清掃を行なう事が大切です。
- 病気や事故の時だけ一生懸命にならず、普段から子どもとよく触れ合い、接触する時間をもち子ども様子を把握しておきましょう。
- 子どもを持った全ての父母も人口呼吸、心臓マッサージができるようにしましょう。

2. 熱の時

- 39℃以上でぐったりしているときは、解熱剤を使う。
- 冷やし方は、頭、わきの下を冷やす。冷えピタは効き目がないそうです。
- 新聞でもご存知でしょうが、冷えピタを使用していた赤ちゃんが、冷えピタがずれて窒息死しました。冷えピタを使っているときは目を離さないようにしましょう。
- 薬は食後とあれば、食事をしていなくても飲ませましょう。
- けいれんをした時はいつからしたか、左右に違いがあったか冷静に医者に伝えましょう。
- 5分以上のけいれんは危険なので、救急車を呼んで下さい。

3. 腹痛の時

- いつもと違う腹痛、シーソー呼吸、小鼻が開く呼吸、あごで呼吸する時は、すぐ医者に行きましょう。
- お腹を抱え込むような腹痛もよくありませんので、強く押したりしないで医者に行きましょう。

4. その他

- 動物にかまれる。(犬の場合はきれいに洗って消毒をする。ネコの場合はきれいに洗うだけでいい)
- やけどは流水で冷やす。みずぶくれはつぶさないで病院へ行きましょう。みずぶくれのまま登園すると、遊んでいるうちにつぶれてしまいます。

